

函館市医療・介護連携推進協議会 情報共有ツール作業部会

第10回会議 会議録（要旨）

1 日 時

令和元年10月3日（木）19：00～19：45

2 場 所

函館市医師会病院 5階講堂

3 出席状況

メンバー：亀谷部会長，松野副部会長，大内メンバー，星野メンバー，岡田メンバー，熊倉メンバー，石井メンバー，小平メンバー

部会運営担当：函館市医療・介護連携支援センター）佐藤，長谷川，中村，鎌田

事務局：函館市地域包括ケア推進課）栗田主任主事

4 議 事

○報告事項

- （1）モニタリングの結果について
- （2）入退院支援連携強化研修会について
- （3）サマリーに関する研修会等について

○協議事項

- （1）はこだて医療・介護連携サマリーQ&A及びモニタリング集計結果について

5 その他

次回の部会日程について

6 会議の内容

栗田地域包括ケア推進課主任主事

ただ今から，函館市医療・介護連携推進協議会の情報共有ツール作業部会の第10回会議を開催いたします。函館市地域包括ケア推進課の栗田と申します。よろしくお願ひいたします。

前回の会議でも確認いたしておりますが，この会議は原則公開により行いますので，ご了承願ひます。

次に，第9回の会議録についてですが，事前に各メンバーの皆様にご確認をさせていただきました。事務局の方には，特に修正のご意見がございましたので，原案どおりで，第9回会議録を確定させていただいて，市のホームページ上で公開させていただきたいと思ひます。

欠席者ですが、本日は公益社団法人 北海道看護協会 道南南支部の岩田明美メンバー、函館市訪問リハビリテーション連絡協議会の吉荒龍哉メンバー、道南訪問看護ステーション連絡協議会の保坂明美メンバーが欠席となっております。

次に本日の資料を確認させていただきます。事前に会議次第、資料1、資料2、資料3までを送付しておりますが、本日お持ちでない方はいらっしゃいませんか。また、あらかじめ机の上に座席表と出席者名簿を配付させていただいております。

次に、部会メンバーの交代がございましたので、ご紹介させていただきます。函館市居宅介護支援事業所連絡協議会の横山メンバーに代わりましてケアプランセンターくりの木 小平涼子様部会メンバーとしてご就任されました。小平様には医療と介護の連携について、現時点でお考えのことを一言付け加えてご挨拶いただきたいと思います。

小平：居宅連協

小平涼子と申します。よろしくお願いいいたします。先日、『入退院支援連携強化研修会』の方にもファシリテーターという形で参加させていただきました。日ごろこのサマリーがどのようにケアマネの間で活用されているのかということを目の当たりにしたといいますか、使い方に関してもよくわからない状況であったり、私たちも活用できていなかったりという部分が多々ありますけれども、こういう部会に参加させていただきましたことで、もっと居宅介護支援事業所の方に情報がいくようにしたいと思っております。よろしくお願いいいたします。

栗田地域包括ケア推進課主任主事

小平様ありがとうございました。

次に幹事の交代がございましたのでご紹介させていただきます。医療・介護連携支援センターに7月1日付で人事異動があり、新しくセンターの相談員になりました中村様です。ご挨拶をお願いします。

中村幹事

7月1日より医療・介護連携支援センターの方に勤務しております中村真衣子と申します。皆様どうぞよろしくお願いいいたします。

栗田地域包括ケア推進課主任主事

中村様ありがとうございました。なお、以前在籍しておりました柳谷様につきましては、センターの隣の部署であります地域連携室のクローバーに人事異動しておりますが、これまでのセンターでの実務経験を踏まえて、必要な際にはフォローできる体制としております。

それでは本日の会議の議事の進行につきましては、皆様の特段のご配慮とご協力をお願いいたします。それでは、亀谷部会長お願いいいたします。

亀谷部会長

皆さんお疲れさまです。それでは、次第に従いまして議事を進めてまいりたいと思っております。早速、報告事項(1)「モニタリングの結果について」を佐藤幹事の方からお願いいいたします。

佐藤幹事

それでは私の方から報告させていただきます。次第、報告事項（１）「モニタリングの結果について」ご報告させていただきます。

資料１をご覧ください。医療・介護関係機関４１８件に配信いたしましたうち１５２件の回収となっております。そのうち（１）の情報提供に活用したことがあるとの回答が８２件となっており、全体の約５４％となっております。「いいえ」と回答した機関は７０件で４６％となります。「いいえ」と回答の７０件の活用していない理由の内訳は御覧の通りとなっております。また２ページ目になりますが、「いいえ」の理由のうち、その他の項目になっている３６件を更に分類したものがこちらになります。一番多い項目となったのが①の「既存の書式を利用」しているとの項目でありました。こちらのデータは前回の部会にて岩田メンバーよりいただきましたご意見を参考に追加データとしております。

（２）「ア 平成３１年１月１日から令和元年６月３０日までの期間で、何件サマリーを作成しているのか」の問いには、最大６７２件の作成をされているとの回答をいただいております。記載はしていませんが、作成件数のトータルは１，３０１件です。活用していると回答いただいた、８２機関での平均作成件数は１６件となっております。

（２）「イ どのような機会に作成し、活用しているか」および「ウ 頻度」の問いに関しては御覧の通りとなります。

（３）サマリーの見直しの必要性に関しましては、「見直しの必要性がない」という回答が８２件の５４％となっております。以降、見直し等の意見を抜粋したものを載せております。

結果としては、過去２回の調査と比較いたしますと少しずつではありますが増えてきている状況でございます。アンケートの回収件数は若干少なくなってきましたが、活用したことがあると回答した件数が少しずつ増え、「いいえ」が減っているという状況でございます。

見直し等の意見の中で、修正可能な内容に関しましては、すでに対応させていただいております。後ほど協議事項「Ｑ＆Ａ集について」にて改めて詳細のご説明をさせていただきます。今年度は、この後ご説明させていただきます『入退院支援連携強化研修会』の開催も行っておりまして、次回の調査に良い形で変化がみられればと期待しているところであります。

以上、報告事項の（１）「モニタリングの結果について」のご説明は、以上でございます。

亀谷部会長

佐藤幹事ありがとうございます。それでは「モニタリングの結果について」ですが、後ほどＱ＆Ａ集の協議事項のところにも入ってきますので、その時に、皆様からご意見いただきたいと思っております。まずはモニタリングの結果については、４１８件のうち回答数が４０％を切れているので、回答の集約をもっと上げていかなければならないというのは一つの問題ではあると思うのですが、サマリイの利用率は確かに上がっているのは数字で出ているので、今後も利用率を高めていけるようにアプローチをしていくような形とか、回答していただきやすい設問等を今後検討していかなければならないというのはありますので、今までの設問と同じような形で行くと年々回答率は下がっていくので、その辺も検討していきながら次回のモニタリングには回答数多く得られながら、多くの意見をいただけるような検討をしていけ

ればと思います。ここのモニタリングと協議事項にありますQ&Aの部分は、そこを踏まえて質問いただくような形で宜しいでしょうか。（異議なし）ではまずモニタリングにつきましては、宜しいでしょうか。（異議なし）

それでは、（２）の「入退院支援連携強化研修会について」について、佐藤幹事から説明願います。

佐藤幹事

報告事項（２）「入退院支援連携強化研修会について」ご報告いたします。

部会メンバーの皆さまには、すでにメールでもお知らせしておりましたが、函館市地域包括支援センター連絡協議会との共催という形で今年度４回の研修会の開催を企画しております。資料２をご覧ください。

（１）開催方法としましては、参加対象者を包括支援センターの職員、居宅介護支援事業所のケアマネジャー、小規模多機能型居宅介護の職員、看護小規模多機能型居宅介護の職員として、「はこだて医療・介護連携サマリー」の説明ののち、入退院支援における相互の連携支援について『知る・考える』機会として函館中央病院 退院支援看護師の奥山ちどり様を講師にお迎えし、『急性期病院における入退院支援に必要な情報共有の内容やタイミングについて』のご講演を頂き、実際にサマリーを記載してみていただく個人ワーク、さらには『入退院支援の中で、急変時病院と協働して利用者さんのためにできること』というテーマにてグループワークを行う形で実施しております。各包括支援センターの圏域を４つに分けて、１回目は７月に４５名、２回目は９月に５０名の参加者となりました。今年度は、あと２回の開催を予定しているところです。研修終了後のアンケートの結果は２ページ目になりますが、いずれも８０％以上の方々が理解が深まったとご回答いただいております。資料２－１をご覧ください。こちらは研修会内のGWにて出た意見やアンケートの中から抜粋した質問に少しでもお答えできればとの思いからコアメンバーの皆さんと回答を考え、後日、参加者にお返ししているものになります。

医療と介護の双方の立場の視点から考え、できるだけ思いやりをもった連携につながるような心掛け回答しております。各研修ごとにこのQ&Aを作成し参加者にお返ししていく予定ですが、今年度４回全ての研修が終了したあとには総まとめとしてセンターホームページに掲載していこうと思っております。その時には前回の部会にてご意見をいただいております「上手くいった事例であったり、こういう便利な使い方がある」などのプラスのアピール作戦も展開していくことが出来ればと考えております。

報告事項（２）「入退院支援連携強化研修会について」のご説明は以上でございます。

亀谷部会長

ありがとうございました。それでは報告事項の（２）関しまして、皆さまからご意見いただければと思います。実はこの研修会、松野副部会長を主にいろいろとやっていただいたので、松野副部会長の方からも先に一言願います。

松野副部会長

はい、内容的には今説明あったようにサマリーの説明から研修から個人ワーク、そしてグ

グループワーク盛り沢山だったので結構詰め込みだったため、少々時間が押してしまい、グループワークにもう少し時間を割きたいというご意見もいくつかいただいておりますが、やってみての反応は、やはり「やってみて良かった」という意見が凄く多かったと思いますし、グループワークをして、様々な方の意見を聞いて「自分がやっていたことが正しかったんだ」とか「後押しになった」という意見も聞かれておりましたので、良かったと思っていました。ただ100%みんな横並びで揃って同じ思いでやっていくというのは、やはり難しいのだろうと思ながらも、このような取組みを続けていくことによって効果があるかなと感じているところです。

亀谷部会長

ありがとうございます。今日現在までで2回、7月と9月やりまして、今度12月が第3回目ということになるのですが、今年度から始めた事業なので手探りでやっている部分もあります。今後あと今年2回あるので、今のこの流れの形で、「こういうのはどうなんだろうか」という意見など、コアメンバーの方で出席されていた方もいらっしゃいますので一言あればお願いします。参加していただいた石井さんの方から一言いただければと思います。

石井：MSW協会

はい、私は第1回、第2回、部会メンバーとして参加させていただきました。印象としては、今仰っていた通り、サマリーの理解を深めていただく良い機会になるということと同時に、グループワークで実際の連携の場における課題や疑問についても結構話されていて、ソーシャルワーカーとして私自身も今後のこういった取り組みに繋げていく貴重な意見が結構聞ける機会になりましたので、次回以降も私自身もまた参加したいなと思って考えております。

亀谷部会長

ありがとうございます。熊倉さんの方から何か要望とか、「このようなことをしたらどうか」とか、何かございますか。

熊倉：地域医療連携

私は今のところまだ第1回、第2回出席できていないのですが、3回目、4回目には都合を合わせて参加していきたいという希望意向はある状況です。グループワークなどの質問の内容などを見させていただいて、ツールのお話を通してというところで、やはり在宅側のケアマネジャーさんが病院に対してどこまで求めていいのかというところが、病院の方も「ここまではいいんだけど」というような、お互いにお見合い状態の部分もあると思いました。おそらくこの会を通して、少しずつではありますが、相互理解というところも促されているのかなという風に見ておりました。この研修会を通してより医療機関などが、職種、立場を超えてお互いがお互いの守備範囲などを共有できていければいいのかなと感じましたので、私も今後に向けてお手伝いできるようにしていきたいと思います。

亀谷部会長

ありがとうございます。小平さんの方からいいですか。

小平：居宅連協

私も第2回目の時に参加させていただきましたが、居宅介護支援事業所の方でも「サマリー自体の書き方が良くわからない」などという状況が見えたかなと思います。ただ、この開催によって周知がされていくことは凄く重要だと思いますし、今年度は包括支援センターですとか居宅介護支援事業所だとかの職員が対象ということでやっておりますけれども、次年度以降は医療関係者の方もこの場に交えながらグループワーク等ができれば、もっと医療関係者とケアマネジャーとの連携というあり方が具体的に見えてくるんじゃないかなと思います。

亀谷部会長

ありがとうございます。岡田先生の方からお願いします。

岡田：在宅ケア研究会

はい、この研修会は参加したことがないですけれども、やはり、とにかく見てもらう、近くにあるということを知ってもらうのは良い機会だし、それに使い方とか実例とかあると「使ってみよう」ということになるので。「ここにありますよ」と言われるだけだとなかなか使えなかったりするのです。大変だと思いますけれど、是非いろいろなところでやっていただきたいと思っています。

亀谷部会長

ありがとうございます。星野さんお願いします。

星野：薬剤師会

はい、この研修会は薬剤師の方は時間帯的に厳しく、対象外でもあるのですが、連携に対しての研修会という、すごく素敵な研修会だなと思っておりました。できれば参加できればいいかなと私個人思っていましたけれど、少々時間帯が出られないので、今後もこの研修会を続けていただきたいなと思っております。

亀谷部会長

ありがとうございます。大内先生お願いします。

大内：歯科医師会

はい、歯科の方からですけれども、実際にこの入退院支援に関しては直接かかわっていないところが殆どなのですが、実際にこちらのサマリーを使用する方、書き込む方、読む方の理解を深めると言うことは、とても良いことだと思います。今年、全地域を4回に分けて実施されるということですけど、全地域実施した後も、来年また新人さんとかも入ってきますし、年1回程度は続けていただきたいなと思っております。以上です。

亀谷部会長

ありがとうございます。皆さんの方からご意見をいただいて、今年度あと2回ありますが、実際この間のコア会議の中でも、次年度どうしようかという、今大内先生が仰っていたその話にもなりましたし、熊倉さんが言っていた相互理解ですね、今回、居宅ケアマネジャーさんや包括支援センター職員さんとか集まっていたいて、私も運営の立場で出たところもあるのですが、実際相互理解を深めるには、異職コラボレーションとしてやることも大事だなと。小平さんも仰ってましたけれど、そういうことも今後検討していきながら3回目4回目を経て、次年度また取り組ませていただければと思います。今はまだ2回しか開催していませんけれどもアンケートの結果で80%以上の方が「理解が深まった」と言っていた部分に関しては、岡田先生からご発言がありました、「見てもらう・知ってもらう・使ってもらう」という、利活用していただくというのが柱の一つだと思います。センターの仕掛けとして競輪場でやって、岡田先生に話をしてもらって、プレゼンして、こういう研修をして、深めていって、また次年度以降、いろんな職種にアピールしていくという中では、続けていかなければならない取り組みだと思っていますので、皆さま方にもいろいろご意見いただきながら時間があつた時には是非お顔を見せていただければと思っています。よろしくをお願いします。

それでは(2)の報告事項については皆さまからご意見いただきましたので、その他にご意見なければ報告事項は終わりたいと思いますが宜しいでしょうか。ありがとうございます。それでは続きまして3番目「サマリーに関する研修会等について」に関して、幹事から説明をお願いします。

佐藤幹事

(3)「サマリーに関する研修会等について」ご報告いたします。先ほどご報告いたしました「入退院支援連携強化研修会」の他に、ご依頼がある都度サマリーに関する研修会等の機会をいただいているところでございますが、今年度これからの予定としては次第に記載しております12月3日の道南摂食嚥下研究会でのサマリー説明の機会をいただいております。また函館市内ではないため、次第には記載しておりませんが、9月19日に北海道看護協会が主催している道の委託事業である「在宅医療・介護連携コーディネーター育成研修会」の中で1時間の枠をいただき「函館市の在宅医療・介護連携体制と連携ツールの実際」というテーマにて本サマリーについてのお話をさせていただきます。今年度は現時点ではこの2回の機会をいただいているところです。今後もこのような機会の都度、サマリイの周知を図っていきたいと考えております。報告事項(3)「サマリーに関する研修会等について」のご説明は以上でございます。

亀谷部会長

ありがとうございます。それではこれについての質問はございませんか。よろしいでしょうか。

それでは続きまして協議事項(1)につきまして、幹事から説明をお願いします。

佐藤幹事

協議事項（１）「はこだて医療・介護連携サマリーQ&A及びモニタリング集計結果について」ご説明いたします。資料3をご覧ください。

これまでと同様、今回のモニタリング時に寄せられた質問に対して、Q&A集という形で回答しようというのですが、これまでのQ&A集にこちらの3つのご質問を追加しております。内容としましてはQ1、Q2に関しては前回のQ&A作成時にすでにサマリーの修正を行っている内容でございましたので同じように回答しております。Q3は同様のご意見を複数いただいておりますので、基本ツールと基本ツール2の連絡先の中で重複している項目については、自動的に基本ツール2に反映されるように修正しております。

資料3のQ&A集、ホームページ掲載用モニタリング結果、及び修正済みのサマリーに関しましては、少しでも早くご意見をいただいた皆様にお返しできるようにと考え、すでに当センターのホームページに掲載させて頂いております。今後もできるだけスピード感をもって皆さまにお返しできるようにしていきたいと考えておりますが、これらの一連の対応について、皆さまの方からもっとこのような方法もあるのではないかなどのご意見をいただければと思いご協議をお願いいたします。また、これまで同様、ご質問いただいた機関には、すでに直接ご連絡してQ&Aの回答と共に新しいサマリーをご活用いただくようご説明させて頂いております。可能でしたら皆さまの方からも各団体を通じて会員の皆さまに今回のサマリーの修正についてご周知いただけますと幸いに存じます。

協議事項（１）「はこだて医療・介護連携サマリーQ&A及びモニタリング集計結果について」のご説明は以上でございます。

亀谷部会長

ありがとうございます。それでは協議事項（１）説明にありました、現在おこなっている「はこだて医療・介護連携サマリーQ&A及びモニタリング集計結果について」地域の医療・介護関係者へお返しする方法として、何かご意見等ございましたら伺いたいと思います。

先ほど冒頭に報告事項（１）でありました、このサマリーの6月までのモニタリングの結果を踏まえて、各メンバーの方からご意見を頂きたい。1つは6月までのモニタリング結果、この質問内容についての感想であれ、どのような形であれ、ご意見いただければと。もう1つは、この資料3にあります連携サマリーのQ&A集、これをもっと確約的に周知していきたい。そのためにはどのような方法があるか、センターの方でホームページ等にて公開しているのですが、何かいい案がないかご意見をいただければと思います。それでは石井さんの方からお願いします。

石井：MSW協会

まずモニタリングの結果についてですけども「活用しやすい」とか「慣れてきた」という意見があって、継続していくことが定着につながっているのかとアンケートから感じていました。同時に受け取り側に対しての対応の違いなどの意見も上がっていますので、今後話し合っていくことが必要と感じております。資料3のQ&Aに関しては、先ほどお話あった通り各団体ごとにも周知を再度引き続きしていければということで、各病院等に周知できるように持っていければと思って聞いておりました。

亀谷部会長

ありがとうございます。熊倉さんの方からお願いします。

熊倉：地域医療連携

私はまずモニタリング結果の方なのですが、段々と利用率が伸びていっているというところでは、触れる機会が少しずつ増えていっているのかなと思います。今使用していない理由の「いいえ」の理由のところ、「その他」も多いのですが、「今後使用の予定」ですとか「準備ができていない」というのは、準備ができればやるという裏返しなのかなとも取れるものなのかと捉えると、もう少し増えてくれるのかなと思います。一応当院もやらないつもりは全然なくて、看護局長等に確認が取れているところがございます。なので部分運用とかでもいいと思うのですが、1枚でも使える機会というところ、そこからスタートでもいいので何か始めていけたらなと思うところです。

Q&Aとか集計結果の周知の部分ですが、これはやはりセンターのホームページを見ないと目にする機会は殆どないのでしょうかね。

佐藤幹事

はい、ありがとうございます。今のところ、センターのホームページ上でしか公開する術を持っていなかったの、何かいい案があればご教授いただければなと思っております。

熊倉：地域医療連携

いろいろな周知活動をされているなかで、1枚調査結果等を入れていただくのはどうでしょうか。「サマリーがあって、これだけ使われていて、これだけ使われていないけれど、こういう伸びしろもあるかもしれない」というところを皆に考えてもらえるきっかけになるかと思うので、自分からホームページを見に行くのではなくて、何かしらのきっかけで見ることになるという、何かこう工夫など。それが何かというところですけども、「見ささる」ような方法が検討できればいいのかなと思っています。

亀谷部会長

ありがとうございます。小平さんお願いします。

小平：居宅連協

モニタリングの方の結果からいうと、今既存の書式を利用しているというところが32件ということで、89%を占めているということですが、実際に私たちもこの見直しの例の中にもあるようにシステムがあって、その他にこのサマリーがあるので、どうしても二重で作成しなければいけないということがあるんですね。なので、作るタイミングも含めてこの研修会に盛り込んでいくとかですね。あとは先ほど熊倉さんの方からお話がありましたけれども、モニタリングとして出た結果なので、それをやはりホームページ上だけではなくて違う形で情報提供という形をとる方法も必要なのかなと思います。具体的に言えば、モニタリングの際には郵送で送られてきたりとかしてますので、例えば事業所さんとかでも回覧の方法とかですね、他の職員が周知する方法はあると思うんですよ。なので、このモニタリン

グの結果をホームページ上だけではなくて、郵送ですとか、FAXですとか、もしそういうことが可能であれば、私たちがやったモニタリングがこういう結果が出てたよというところも動きとしてはモニタリングをやった結果として見えてくるんじゃないかなと思います。Q&Aに関しても同様で、やはりこういう風にQ&Aとして質問があり答えをきちんと出しているんだというところをホームページ上だけではなくて、団体ですとか、郵送という形、FAXという形、いろんな形で皆さんの目に触れる機会があればいいのかなと思います。以上です。

亀谷部会長

ありがとうございます。岡田先生の方からお願いします。

岡田：在宅ケア研究会

やはり、どんどん情報発信をしていった方が良いと思います。医療・介護連携支援センターニュースでも何でもいいですから、こういうサマリーだけじゃなくて、各機関に周知して、どれくらいの参加があって、評価があったというようなことも各事業所なり、医師会なりに、医師会のお知らせに載せてもらうなりの形にするのと、やはりこのサマリーが進化しているということを伝えていかないと、ずっと同じものを使っている訳じゃなくて意見を入れて地域でブラッシュアップしていいものになっているというものをやっていけば、乗り遅れないように自分たちも意見を言って、いいものにしていくものに参加していくという気になるだろうから、ずっと同じものではないということを知らせていくのに、どういう媒体を使うかはともかく、興味のないところにも何となく繋がるようなことをやっていただければいいかなと思います。考えていただければと思います。

亀谷部会長

ありがとうございます。星野先生お願いします。

星野：薬剤師会

薬剤師は受け取る側なので、作成する方ではないので意見を言うのは大変恐縮なのですが、モニタリングの方の見直し等の意見の抜粋の中で、先ほどの意見とも重なるかと思うのですが、「どのくらい活用が進んでいるのか調査と共に前回分の集計分が欲しい」「この活用でどのくらい連携が図れているのか知りたいです」ということで、すごく興味を持たれているのかと思いますので、このようなモニタリングだったり、サマリーだったり、やっているということを何か、研修会とかでアピールしたりとか、モニタリングの公表というのも時間の経過とともに必要になってくるのかなと思いました。以上です。

亀谷部会長

ありがとうございます。大内先生お願いします。

大内：歯科医師会

モニタリングの結果等は、先ほど岡田先生も仰ってるみたいにホームページで伝えるだけ

ではなく、やはりそれぞれの事業所にメールに添付するとかで配信したほうがいんじゃないかなと思っています。このモニタリングの結果というのは、この委員会に出席している方はもちろん皆さん見ているのですが、それぞれの施設の方というのは見れていないんですよね。何かの機会とかに見ることはあるのかと思いますけども、常に見ることは無いと思いますので、佐藤さん仕事増えて大変でしょうけども、なんとかそれぞれの施設の方に直接見れるような、PRタイムと言いますか、すぐに見れるような形でしていただけるとありがたいなと思います。以上です。

亀谷部会長

ありがとうございます。松野さんお願いします。

松野副部会長

こちらから発信するというのが大事だという意見が沢山頂けてましたので。包括支援センターのモニタリングのところでは10件の90%となっているので、これを100%にするというのはできると思います。少々連協の中で考えたいなと思っていました。そこは凄くやりやすい体制にはなっていますので。もう1つ、今回の研修の共催団体になっているケアマネジャーネットワーク函館の方では、ニュースという形で定期的に情報を流しています。そういうことをしていくのも1つなのかなと、岡田先生が仰っていただいた方法も取れるのかなと思っております。ただ、機関があまりにも多いですからね。医療・介護連携支援センターだと会員、非会員関係ないので、送ろうと思えば全団体に送ることが可能ですよね。そういうのもあるので、団体通してしまうとそういうことが難しくなる団体も出てきますので、そういうこともできるのかなと思うので、すごく考える余地があるなと思って聞かせていただきました。是非検討しましょう。

亀谷部会長

ありがとうございます。皆さんからご意見いただきましたけども、すごくセンターとして取り組んでいかなければならない事だと思って聞いておりました。やはり情報発信するというのは、先ほど星野先生も仰ってましたけれども、結果のフィードバックされていなければいけないのですが、しっかりとフィードバックを受け取ってもらえてないのが現状だということが、はっきり分かったので、さっき熊倉さんが言っていたのですが「見ささる」ような結果報告ができればいいのかなと思ってます。岡田先生が仰っていた情報発信のためのセンターニュースであるとか、ある程度定期の機関誌を作って、いろんな情報を1年に4回発信するだとか、そういうものもありだと思いますし、これがどうなのかですがSNSで発信するというのもありだと思いますし、各団体とつなげるツールが出来さえすれば情報発信ももっとレスポンスよくやれるのかなというのも考えますので、これをまたコアメンバーの方でいろいろ考えて是非またこの部会の方で前向きな意見を出せればと思いますので、この場だけではなくて、終わった後でもなにかそういう意見、「こういうのはどうだろうか」というようなご意見がありましたら是非センターの方にお寄せいただければと思います。

かなり情報、ご意見いただきましたので。この他になにか言い忘れたとか何かございませんでしょうか。宜しいでしょうか。なければ、今頂いた意見の中で、既存の形は今まで通

り進めるとして、今後新たな周知活動を検討してやっていくということで宜しいでしょうか。ありがとうございます。それでは皆さまから頂いたご意見をもとに、今後改めて協議させていただくなど調整しながら内容の確定を図りたいと思いますのでよろしくお願ひしたいと思ひます。

では次回の部会について担当の幹事から説明をお願ひします。

佐藤幹事

次回の部会は、6ヶ月後に実施いたしますモニタリングの集計後に開催できればと考えておりますが、協議等を要する場合は適時ご案内させていただきます。改めてその際には日程等を各メンバーの方々にお伺ひして開催しようと考えておりますので、ご了承願ひします。

なお、1点だけ宣伝させていただければと思ひますが、今週初めに多職種連携研修作業部会が開催されました。その際に第5回大規模研修会といいますか、多職種連携研修会の詳細等が確定いたしましたのでご報告させていただきます。今年度は11月30日に昨年同様、国際ホテルにて開催させていただきます。テーマは昨年と同じように「看取り」についてとなりまして、昨年岡田先生にもご協力いただいておりますが「施設看取り・在宅看取り・病院看取り」こちらのスタイルは変わらずに、今後は多職種の視点からという形でお話していただく予定になっております。皆さまもしご都合がございましたら是非ご参加いただければと思ひます。後日案内文書を各医療・介護機関に直接ご案内させていただくような形で配信いたしますので皆さま沢山のご参加をお待ちしております。よろしくお願ひいたします。

亀谷部会長

ありがとうございます。最後に全体を通してご意見ご質問等ございませんでしょうか。宜しいでしょうか。それでは他になければ、これですべての議事が終了いたしましたので、進行を事務局の方にお返ししたいと思います。お願ひいたします。

栗田地域包括ケア推進課主任主事

亀谷部会長どうもありがとうございました。それでは、以上をもちまして函館市医療・介護連携推進協議会の情報共有ツール作業部会の第10回会議を終了いたします。皆様どうもありがとうございました。